



自分たちのまちの歴史などを知る
スペースを設けてはどうか



大階段で記念撮影できる
のは、とてもいいと思う



可能な範囲で児童が工事
に参加してはどうか



3階の庭は日光が入るのであれば、
理科の実験や観察に使える



外国語教室は音問題があるので、
図書室から離してほしい



ステンドグラスの窓を
みんなで作りたい

友だちと座って話せる
ベンチが廊下にほしい



学校のいたるところ
に絵を描きたい



裸足で遊べる芝生の
校庭がほしい

小学校に通学する年代の児童の意見を聞くために開催しました。「行きたくなる学校」というテーマなどに対して意見を聞きました。

参加者 新設小学校に分かれていくことになる、津屋崎小学校の6年生全員と福岡小学校5・6年のクラスで立候補した児童。

また、市中学生未来会議のテーマの一つとして「新設小学校について」を取り上げ、津屋崎中学校と福岡中学校の生徒に提案してもらいました。

参加者 市内全小学校の教員と市指導主事の14人。

児童・生徒ワークショップ

小学校教育の現場の意見を聞くために開催しました。教育現場での実際の経験をもとに、校舎内の配置や設備などに関して意見を聞きました。

教員ワークショップ

津屋崎中学校の津屋崎郷づくり協議会、津屋崎中学校の教員とPTA、勝浦小学校の教員。公募。合計36人。

地域ワークショップ

地域と学校をつなぐための意見や思いを聞くために開催しました。

地域ワークショップ

令和5年度には、新設小学校の校舎や体育館などの平面図や立面図などを作成する基本設計を行いました。基本設計では、市教育委員会や設計業者だけでなく、小学校に関わることになるたくさんの人の意見や思いを聞き入れるために、3つのワークショップを開催しました。

特集

新設校建設

年度末に完成した校舎や体育館の図面やデザインなどの基本設計図書と6月中旬着工の造成工事、造成工事による洪水浸水想定区域の影響調査結果について概要をお知らせします。

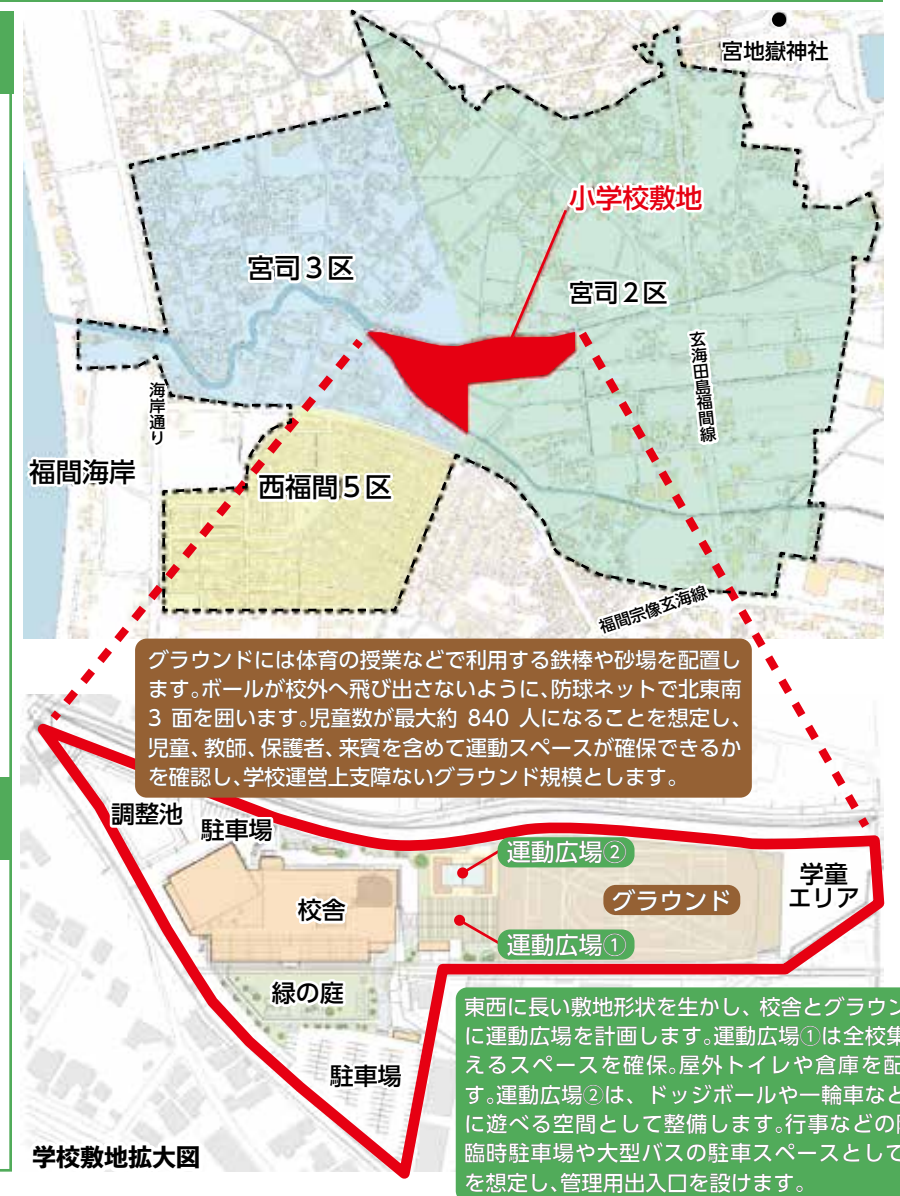
問い合わせ 市教育総務課 ☎62・5092

新設小学校の概要

所在地	宮司2丁目から宮地浜1丁目にわたる地域
校区	宮司2区、宮司3区、西福岡5区
教室数	普通教室24教室と特別支援教室10教室
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
敷地面積	約25,000㎡ ※学童エリアと調整池を含む
建築面積	約4,200㎡
延床面積	約9,500㎡
階数	地上3階

学校敷地の特性

東西に広く、敷地東側は第1種低層住居専用地域で高度地区の高さ制限が10m、西側が第1種住居地域で高度地区の高さ制限が12mとされています。そのため、校舎の規模などを検討した結果、図のような配置としました。



学校敷地拡大図

グラウンドには体育の授業などで利用する鉄棒や砂場を配置します。ボールが校外へ飛び出さないように、防球ネットを北東南3面を囲います。児童数が最大約840人になることを想定し、児童、教師、保護者、来賓を含めて運動スペースが確保できるかを確認し、学校運営上支障ないグラウンド規模とします。

東西に長い敷地形状を生かし、校舎とグラウンドの間に運動広場を計画します。運動広場①は全校集会が行えるスペースを確保。屋外トイレや倉庫を配置します。運動広場②は、ドッジボールや一輪車など多目的に遊べる空間として整備します。行事などの際には、臨時駐車場や大型バスの駐車スペースとしての利用を想定し、管理用出入口を設けます。

過大規模を緩和する 新設小学校を建設準備中

現在、福津市では令和9年4月の開校に向けて、新設小学校を建設準備中です。

新設小学校の建設地は、過大規模となっている福岡小学校と福岡中学校の児童・生徒数の緩和を図るため、今後も特に児童が増加する見込みの宮司2区、宮司3区、児童が急増した西福岡5区を校区とし、上図に示す位置としています。

学校の規模は、通学する児童数や建設敷地、既存の学校施設の状況などをもとに検討し、普通教室が24教室、特別支援教室が10教室の840人規模としています。

地域や教員 児童の声を反映

令和5年度には、新設小学校の校舎や体育館などの平面図や立面図などを作成する基本設計を行いました。基本設計では、市教育委員会や設計業者だけでなく、小学校に関わることになるたくさんの人の意見や思いを聞き入れるために、3つのワークショップを開催しました。

新設小学校の基本設計図面が完成

新設小学校の特徴1 学年コモンズ(普通教室)

▶学年のまとまりを学年コモンズと呼び、普通教室が4教室とラーニングスペース、男女トイレで構成します。日当たりが良く眺望の良い緑の庭に面する南側、および運動広場に面する東側に配置。学習の幅を広げ、学年ごとのまとまり空間として整備します。



●ラーニングスペース

- ・普通教室と連携し、少人数学習やグループ学習などに柔軟に対応し主体的・対話的に深い学習を実現する学年コモンズを形成します。
- ・掲示クロスやホワイトボード、作業流しを設け、発表・興味・製作など活発な利用を促す場とします。
- ・ベンチを設け、他クラスとの交流の場とします。
- ・学年コモンズ内に学年専用のトイレを男女とも整備します。
- ・他の学年コモンズを横切ることなく特別教室などにアクセスすることができる動線を確保することで、活動の妨げにならない計画とします。
- ・学年コモンズごとにテーマカラーを設け、児童の共有意識を高めます。



▲普通教室とラーニングスペースを一体利用



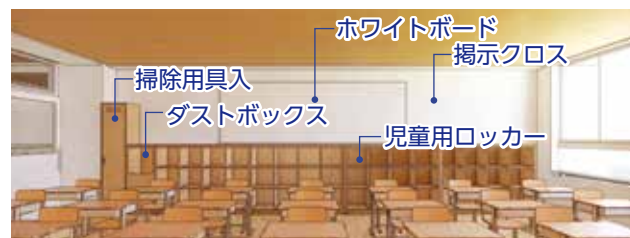
▲ラーニングスペースから見る教室

●普通教室

- ・普通教室の広さは、1クラス35人を想定し、計画しています。
- ・廊下側の扉の開口が大きくなるように多連引戸を採用。教室前のラーニングスペースと一体的に利用することで学習の幅を広げます。
- ・カーテンレールを教室中央に配置し、体育の授業の際に教室内で男女が着替えることができるように配慮します。
- ・1階は低学年の利用を想定し、低学年グラウンドに直接つながる出入口を設けます。



▲普通教室正面イメージ



▲普通教室背面イメージ

新設小学校の特徴2 特別教室・ギャラリーストリート

- ▶音楽室や理科室、図書室、外国語教室などの特別教室は、校舎北側にまとめて配置します。
- ▶3階の光庭を中心に図工室、理科室、音楽室を配置し、作品や成果品を展示するギャラリーストリートを設け、児童の成果発表の場とするとともに、主要な活動導線上に計画することで子どもたちが興味を持つきっかけをつくります。



▲図書室の楽しみ読みエリア



▲図工室イメージ



▲ギャラリーストリートイメージ

新設小学校の主な特徴を紹介



「特集」新設小学校建設に寄せて
市民の皆さまへ

福津市は、平成 17(2005)年 1 月に福岡県と津屋崎町が合併し誕生しました。これは平成 13(2001) 年に成立した小泉純一郎内閣によって国の関与を縮小(小さな政府)、地方の権限・責任を拡大し(地方分権) ①国から地方への補助金の見直し ②国民から納められる国税から地方税への税源委譲 ③全国各地の均衡ある発展のために国から市町村等に交付される地方交付税(財政調整機能)の削減という『三位一体の改革』によって地方行政経営の効率化を目指した「平成の大合併」による誕生でした。

この度の福津市の新設小学校は、この間子育て世帯のファミリー層が多く住んで来られた福岡県と津屋崎町の町境であった海岸沿岸部近くにお住いの子どもたちが通学している福岡小学校(現児童数約 1500 人)と、津屋崎小学校(現児童数約 1100 人)の間の地に建設することで、両学校(特に全校児童数が 1800 人を超えていくと推定している福岡小学校)の児童数をできる限り減少させること、また新設小学校に通っていただくことを想定している子どもたちが津屋崎中学校に進むことで、一学年の学級数がすでに 10 クラスを超えている福岡中学校の生徒数も、約 350 人から 400 人減り、市内の子どもたちが享受する学校教育環境ができるだけ均衡・緩和されることを目的としています。

新設学校という教育施設は、特に校区編成と、これによる通学路(特に通学距離)に充分なる配慮をもって配置せねば、子どもたちを通わせることにご理解をいただけないと考えることから、公有地民有地に関わらず設置場所については、他の公共施設と比較しても最も頭を悩ませました。

この度の当該地が海に近く、川の河口付近に面した場所ということで、津波高潮や川の溢水浸水のリスクがあることを決して無視しての配置案ではないことを何卒ご理解いただきたく思いますが、新設学校建設近接地にすでに住まいを構えていらっしゃる市民の皆さまには、心にご負担をおかけしております。過密化緩和のため令和 9 年度開校を目指しての工事を今後進めさせていただく中でも、市としてできる限りの対処を考えねばとの所存でございます。近隣住民の皆さまにおかれましては何卒、ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

結びに、新設学校建設に至るこの間の経緯につきましては、昨年特集として発行した『広報ふくつ』令和 5 年 3 月号と 5 月号、および令和 2 年 12 月号にもございますので、あわせてご参照いただければと思います。一方でお、過大規模校として、市教育委員会との調整段階から課題として残った福岡南小学校につきましては、時間も経過しご不満ご負担をおかけしておりますことを大変申し訳なく思っています。高校等進学を控える市内中学(小)生(小)の学校教育環境整備とあわせさらなる対応について、南小、福中の保護者や地域、関係の皆さまのご意見をいただくなど、今後ともできる限り丁寧な手続きで、行政の責務を果たさせていただく所存です。ご理解のほどを何卒お願い申し上げます。



福津市長 原崎智仁

新設小学校用地の造成工事着手

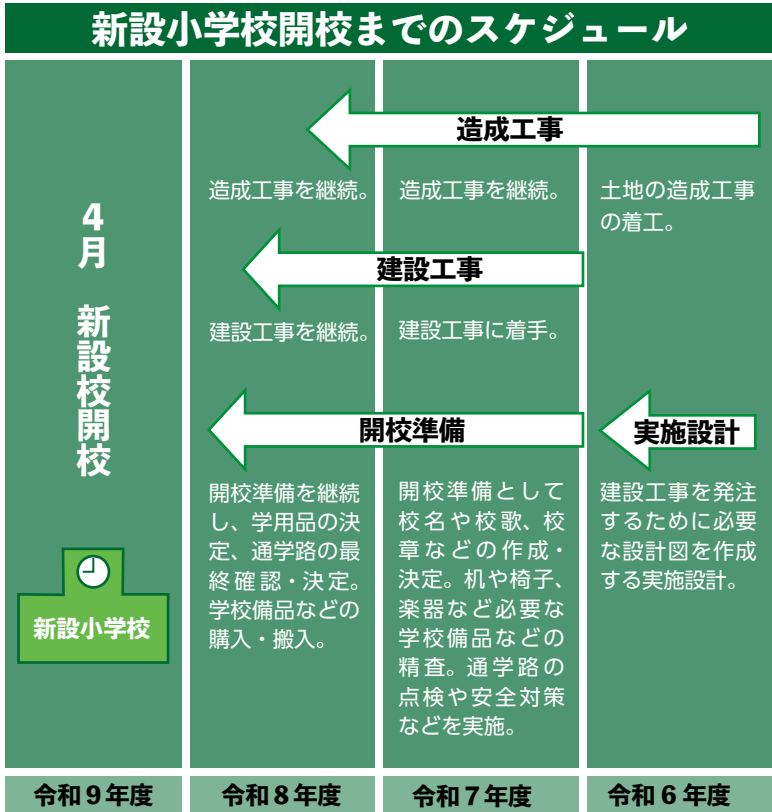
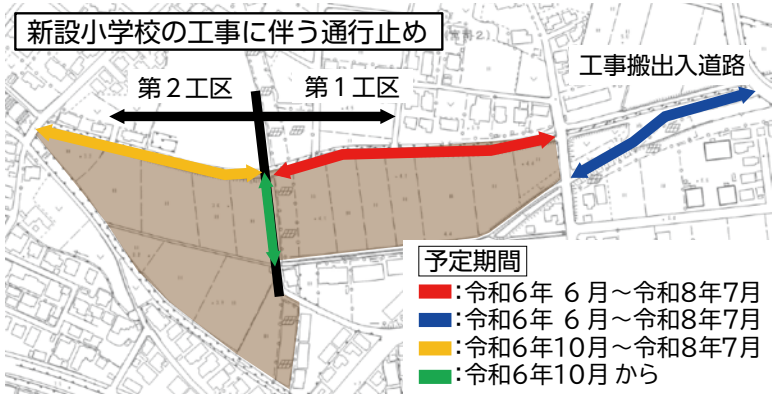
学校用地の造成工事は敷地東側と西側の 2 つの工区に分けて実施します。

6 月中旬から第 1 工区に着手し、学校敷地への搬入用道路の整備を開始しました。今後、学校敷地内の嵩上げなどを行っていきます。12 月ごろには第 2 工区に着手する予定です。造成工事の完成は、令和 8 年 6 月ごろを予定しています。また、令和 7 年から令和 8 年には、校舎棟や体育館、駐車場、外構などの建設工事を予定しています。造成工事と建設工事の合計期間は、3 年間の予定です。工事期間中、学校敷地周辺は歩

通行止め

通行止め道路に面している家屋の出入りについては支障がないよう調整しながら進めていきます。

また、下図の緑色の通行止め区間は、新設小学校造成工事(2 工区)の着手後から学校用地になるため通行することができなくなります。通行止めの時期は、工事の進捗状況によって変更する場合があります。



新設小学校の主な特徴を紹介

新設小学校の特徴 3 地域エリア、アリーナ、家庭科室

- ▶地域・来客出入口は、立ち寄りやすさに配慮して正門および来客駐車場のそばに配置します。
- ▶家庭科室は、避難所運営時にアリーナとの連携しやすさや地域開放時の使用頻度が高いと想定されるためアリーナ近くの来客出入口に隣接した位置とします。
- ▶アリーナは、地域開放を想定し、敷地南側駐車場からアクセスしやすい校舎南側に専用の玄関を設けます。出入口前には、交流サロンを設け、児童滞留スペースとしての広さを確保するとともに、児童の作品や地域の活動などを紹介することができる展示スペースを設けることで、日常的に相互交流が生まれる設えとします。

新設小学校の特徴 4 教職員エリア

- ▶職員室や校長室、事務室、保健室、印刷室、教材庫、教職員用のトイレ・更衣室などの管理諸室をワンフロアに集約配置し、教職員の連携強化を図ります。
- ▶職員室は、昇降口やグラウンドに見通しの効く校舎 1 階北東に配置します。
- ▶保健室は保護者の自家用車送迎や緊急車両の寄付きを考慮し、来客駐車場に近い北側に配置します。



▲保健室イメージ

新設小学校の特徴 5 昇降口・メディアステップ

- ▶昇降口からメディアステップは主要な活動動線となる 1・2 階の学校の中心に配置します。2 階図書室や学年コモンズと空間的なつながりを作ることで、児童の興味や関心の相乗効果を高め、学ぶ楽しさを感じられる空間づくりを行います。
- ▶メディアステップは、日常時の活動動線や図書を身近に感じられる場所として活用するとともに、イベント時には発表や劇の舞台の場など多目的に活用可能な計画とします。
- ▶大きな階段に座り、授業や発表会など階段教室としての利用が可能です。正面の大きな壁面に映写可能で映像鑑賞などに利用可能です。
- ▶壁面に本の陳列棚や児童の活動成果品などの展示棚を設け、子どもたちが気軽に手に取れる・目に触れるようにすることで興味を湧かせ、学習や交流のきっかけをつくります。



造成工事による想定最大規模の洪水浸水想定区域への影響

新設小学校用地を含む周辺地域は、手光今川水系の想定最大規模の洪水浸水想定区域、高潮浸水想定区域、ため池ハザードマップの浸水想定区域に指定されています。学校施設に関しては土地の嵩上げや外構工事によって想定最大規模の降雨があった際にも浸水を免れる対策を行います。学校敷地に関しては、調整池を整備するため、そこに雨水を流し込ませるように土地を嵩上げする計画です。一方で『これまで大雨が降った時に学校用地に流れ込んでいた雨水が嵩上げすることで行き場がなくなり、周辺に影響を及ぼすのではないかと』との意見をいただきました。

そのため、現状の宮司地域周辺の宅地開発や新設小学校の造成工事を反映させた想定最大規模の降雨があった場合の影響調査を実施。大部分の地域に関しては、ほとんど影響がない結果でしたが、一部の箇所に関しては、浸水深が深くなるという影響が想定される結果が出ました。詳しくは、市公式ホームページに工事説明などと合わせて掲載しています。

